

へっほこ登山隊活動記録

※サロマ湖畔 いこいの森の巻 ※

1月30日快晴、気温はマイナス5度、おだやかな天気ですが太陽がほぼ真上の時間でこの気温はさすがに寒い！

国道238号線道の駅「愛ランド湧別」の駐車場でスノーシューを履きサロマ湖に向かって坂を下ると「いこい森」の木製看板と「遊歩道入口」の標識が目印になります。

木々の間から眼下に広がる真っ白な雪原がのどきさらに坂を下ると沢をまたぐ吊り橋が架かっています左手には雪に埋もれた池が、右手には凍りついたサロマ湖の湖面、その奥には湖の周囲で一番高い幌岩山（標高 376m）が見えてきます。橋を渡ると遊歩道は二手に分かれ左は山沿いの「ふれあいコース」、右は湖沿いの「パノラマコース」、橋のたもとには休憩に使える東屋があります。

ここは迷わず見晴らしのよさそうなサロマ湖沿いのコースを選択し、対岸の街並みやオホーツク海につながる湖口の流氷を双眼鏡で眺めながら小さなアップダウンを繰り返してひっそりと静まり返った森の中には雪を踏みしめる音とメタボの荒い息づかいが響きわたります。

途中に見える山小屋風の建物で二つのコースが交差していますが、この建物は開放されていないのであくまで「中間点」の目印というところ。ここから「ふれあいコース」をたどり出発地点に戻ると約1時間半の散策コースになりますが、今日はさらに湖に沿って登り下りを繰り返し尾根筋に出ると車の走行音が聞こえ国道238号線との仕切りゲートに突き当たります。

ここで折り返し国道と雑木林を挟んで続く人工的な桜並木の遊歩道が帰り道の目印、少し登りがきつくなるあたりから森の中に戻り小高い丘の頂点で日当たりのよい場所に出ると小鳥たちの餌場で、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、アカゲラ、ヤマゲラ、コゲラなどがすぐそばで樹皮を突いていて、カメラと双眼鏡を交互に持ち替え息を殺していると汗が吹き出てきます。汗をぬぐいつつ丘を下り始めると間もなく先ほどの中間地点の山小屋があり、幅の広い切通しの道に出るので上空に気をつけていると大きな黒い影、この日はオオワシを見ることができましたがこの周辺ではオジロワシもよく見かけます。

この先で直進の下りと大きなカーブの二股に分かれ、カーブに沿って松林の間を抜けると駐車場までショートカットできますが、今日は下りを直進し吊り橋から戻る「正直者のルート」を帰ることに、おかげで汗は引くことなく流れていました。

いこいの森は平成17年に北海道「げんきの森」に設定され、町民ボランティアなどで行う活動委員会が夏と冬の年2回クラフトづくりやスノーシューハイキングなどの森林体験学習を開催しています。

湧別町 いこいの森 (いこいの森)		標高 m
行 き	1 : 3 0	2 : 5 0
休 憩	1 0	
帰 り	1 : 1 0	

